



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2022年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

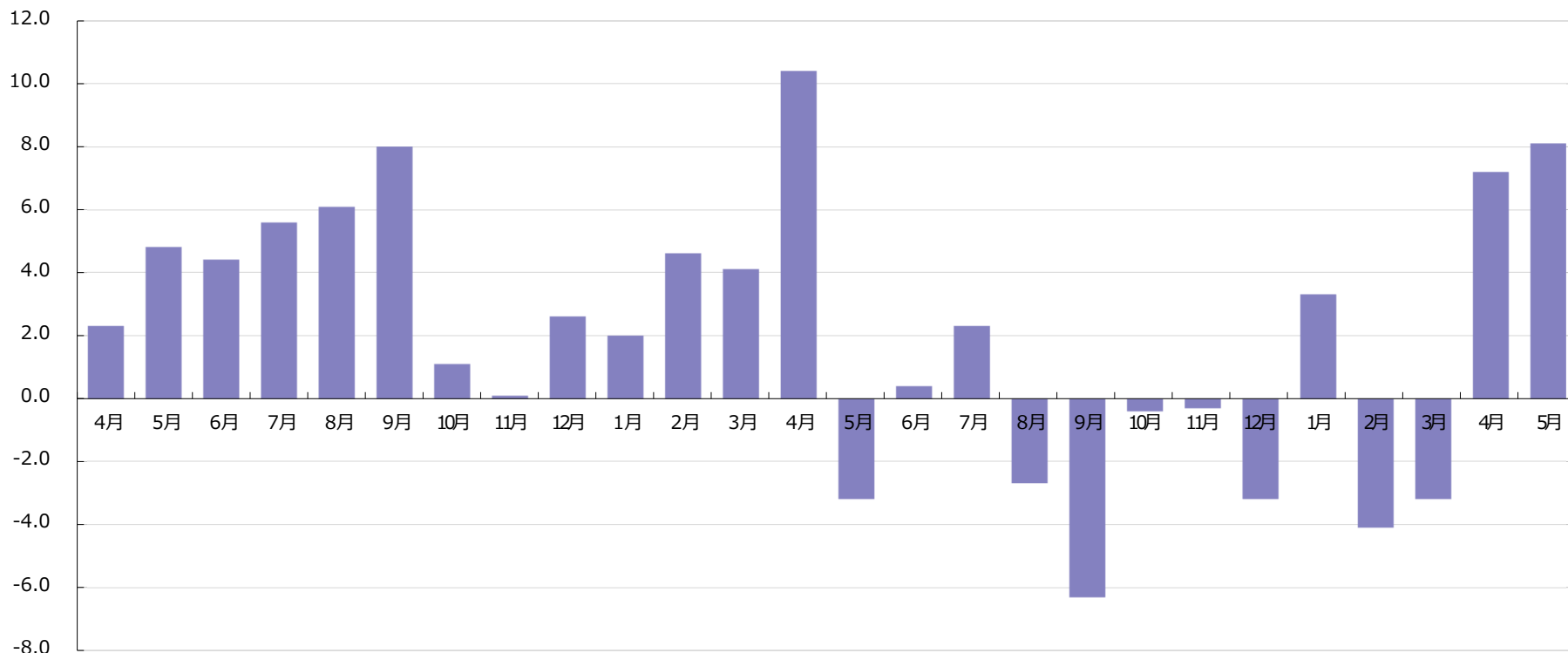
2021年8月10日

2022年3月期第1四半期 決算概要

2022年3月期第1四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、2020年8月から減少傾向が続いていたが、4月、5月は2か月連続で増加しており、新型コロナウイルス感染症による影響に下げ止まりの兆しが見られる。

2022年3月期第1四半期総括

売上高は過去最高、利益面は上場来3位、前年同期比で増収増益

売上高	: <u>1,357</u> 百万円	前期比	1.4%増		
営業利益	: <u>118</u> 百万円	前期比	13.2%増	利益率	8.7%
経常利益	: <u>129</u> 百万円	前期比	10.1%増	利益率	9.6%
当期純利益	: <u>88</u> 百万円	前期比	4.7%増		

受注高は過去3位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>1,501</u> 百万円	前期比	5.3%減
受注残高	: <u>2,707</u> 百万円	前期比	4.5%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 前期より継続している需要構造の変化に対応している。前期に比較し、大幅に減少しているモバイルネットワークB Fから、他のB Fへ内部の資源をシフトした結果、社会基盤システムB FとインターネットB Fの売上高比率が上昇した。
 - モバイルネットワークB Fは、減少傾向が継続しており、今後の商談傾向を注視している。
 - 宇宙先端システムB Fは、ロボット案件は堅調だが、宇宙天文分野の大型案件が前期で終了したため減少した。
- 商談状況は、全体的には悪くないが、顧客ごとに大きく状況が異なるため、顧客の事業計画や研究開発計画が変動し、先が読みにくくなっている。

第1四半期損益計算書

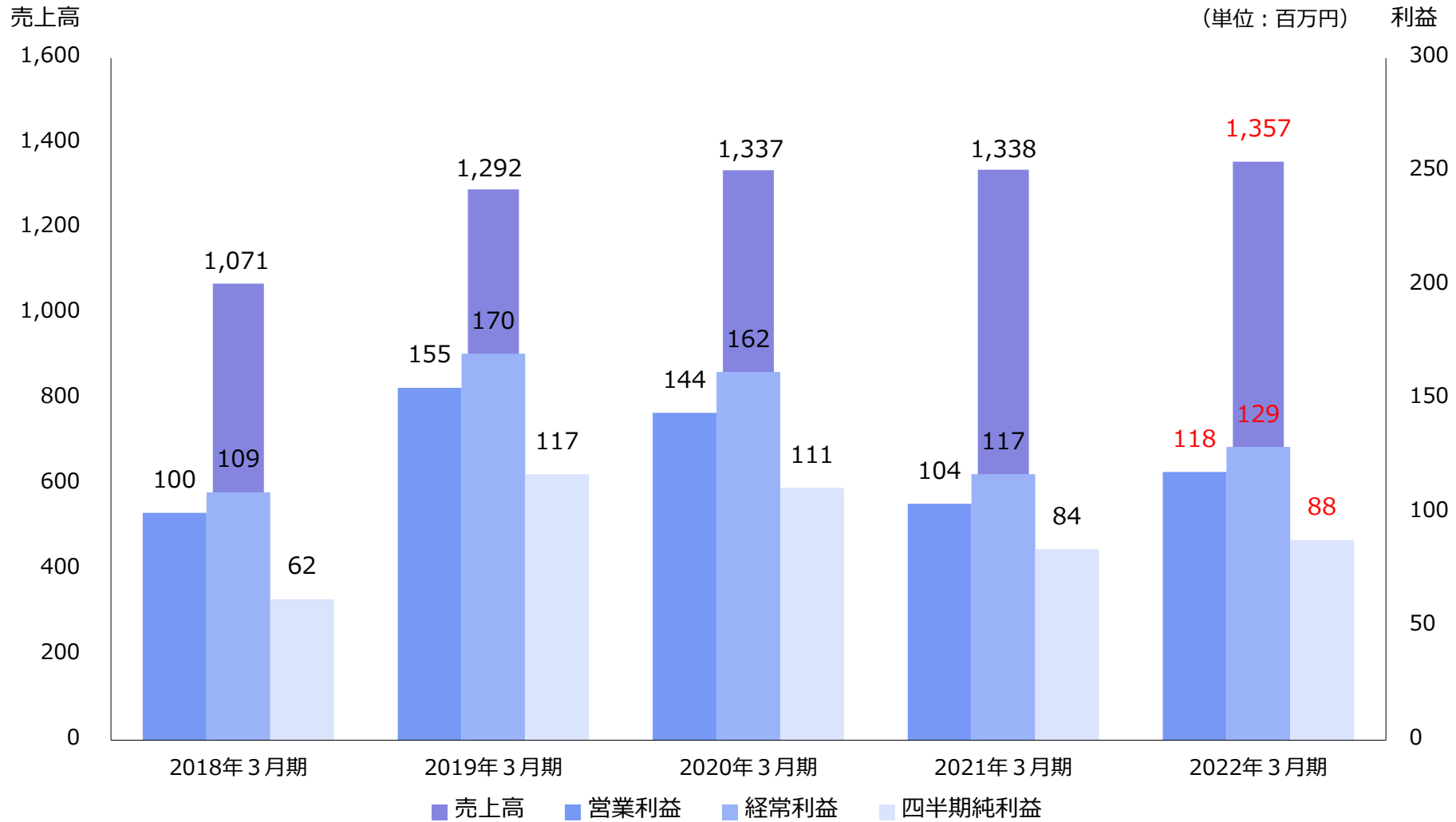
	2021年3月期第1四半期 (百万円)	2022年3月期第1四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,338	1,357	101.4	—	—
売上原価	1,011	989	97.8	—	—
売上総利益	326	367	112.4	—	—
販売管理費	222	249	112.1	—	—
営業利益 (営業利益率)	104 (7.8%)	118 (8.7%)	113.2	—	—
経常利益 (経常利益率)	117 (8.8%)	129 (9.6%)	110.1	—	—
当期純利益	84	88	104.7	—	—

売上原価 外注費が減少 (外注費 3.8億円、前年同期比5.0%減、売上高外注比率28.5%、前期30.5%)

販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が大幅に増加、研究開発費も増加
(研究開発費は15百万円で、前年同期比で4.5%増)

第1四半期決算業績推移（過去5年）

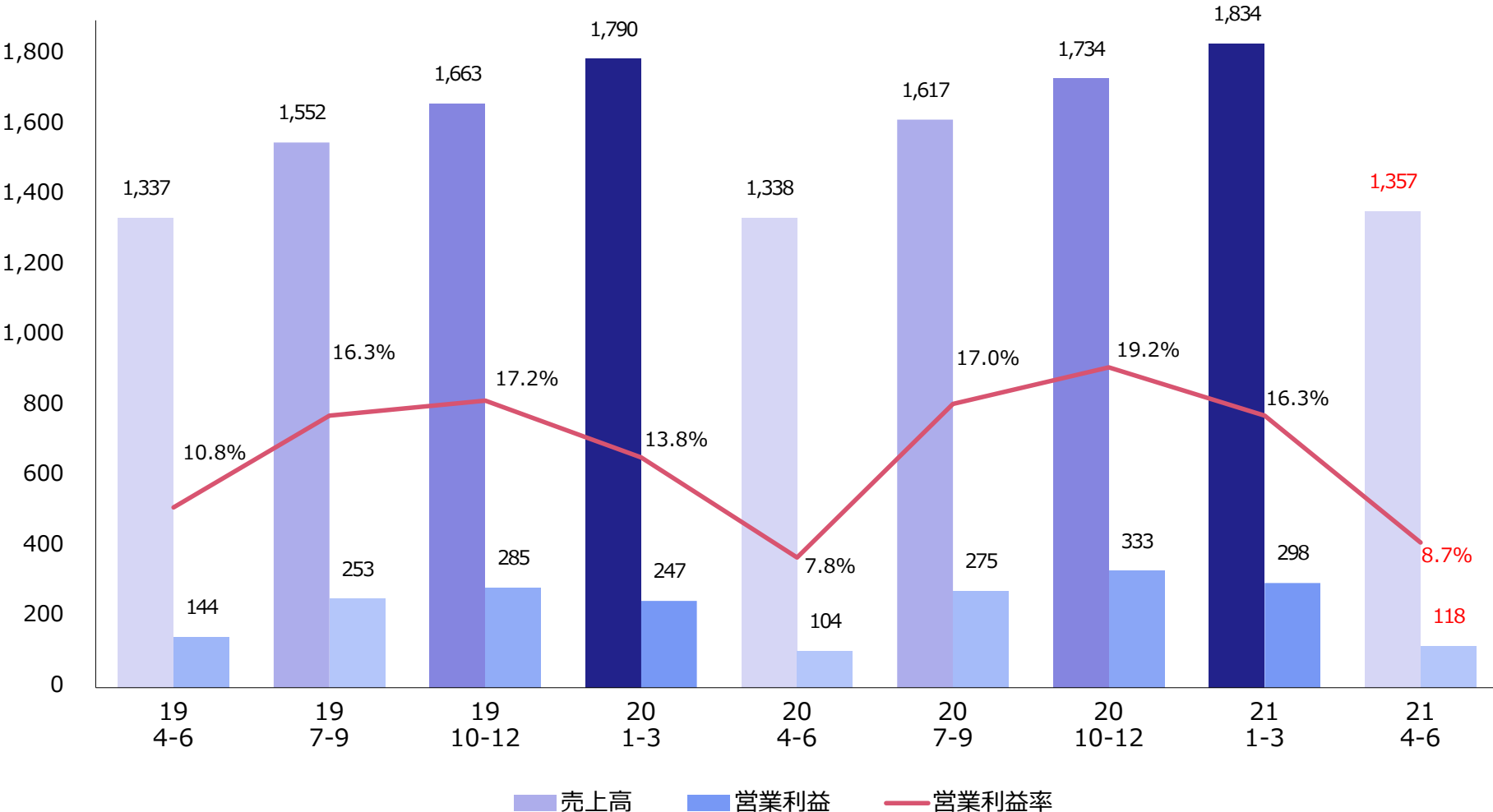
売上高は過去最高、営業利益、経常利益は上場来3位



四半期業績推移 (P L)

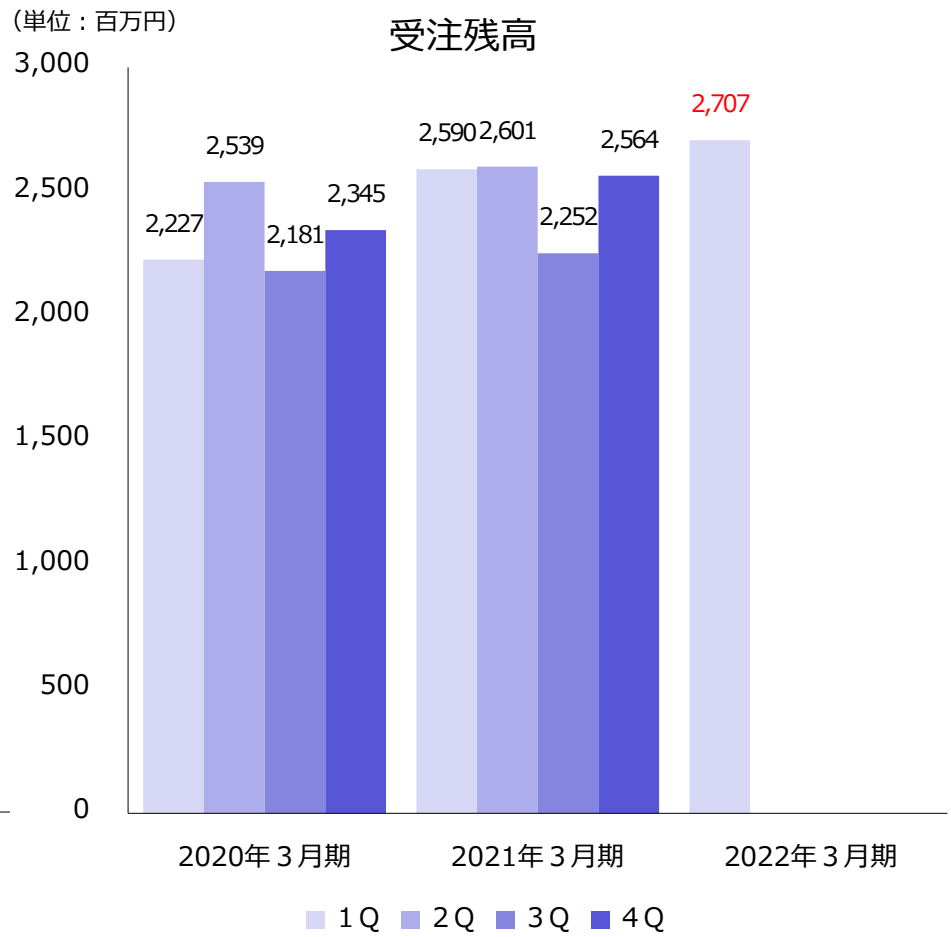
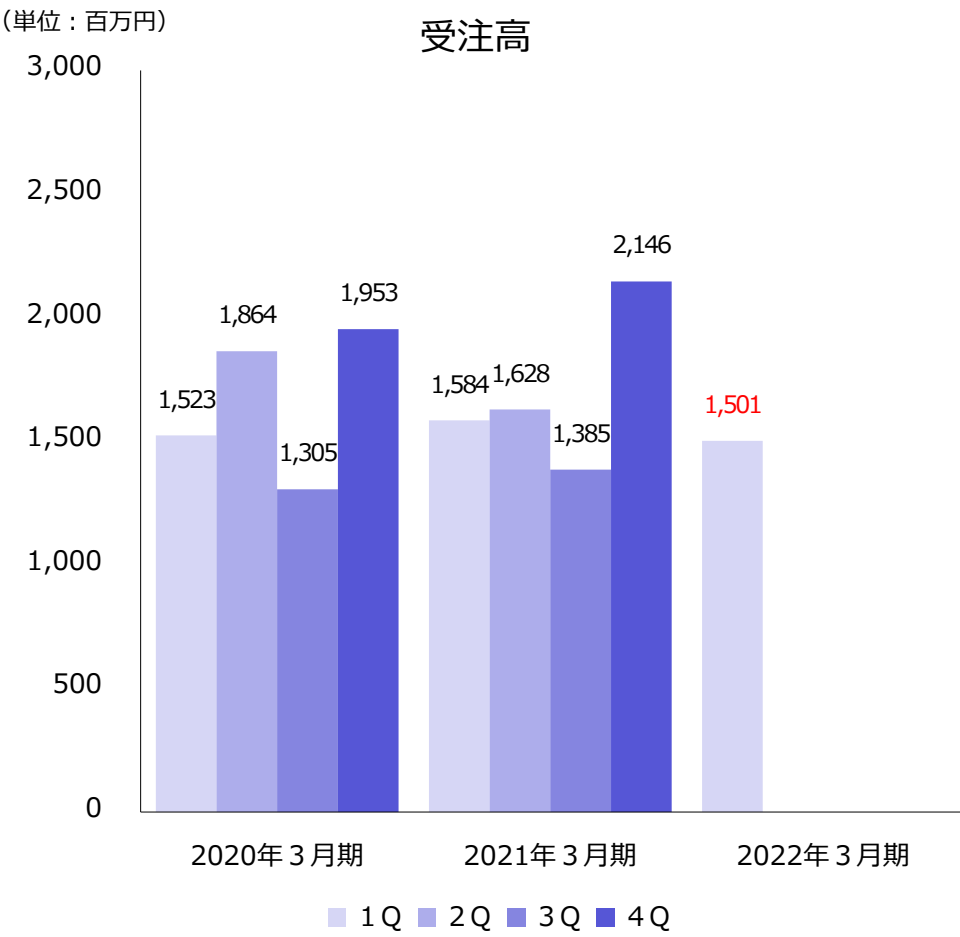
前年度第2四半期から、4四半期連続の増収増益

(単位：百万円)



四半期業績推移（受注状況）

受注高は過去3位、受注残高は過去最高



第1四半期BF別の状況

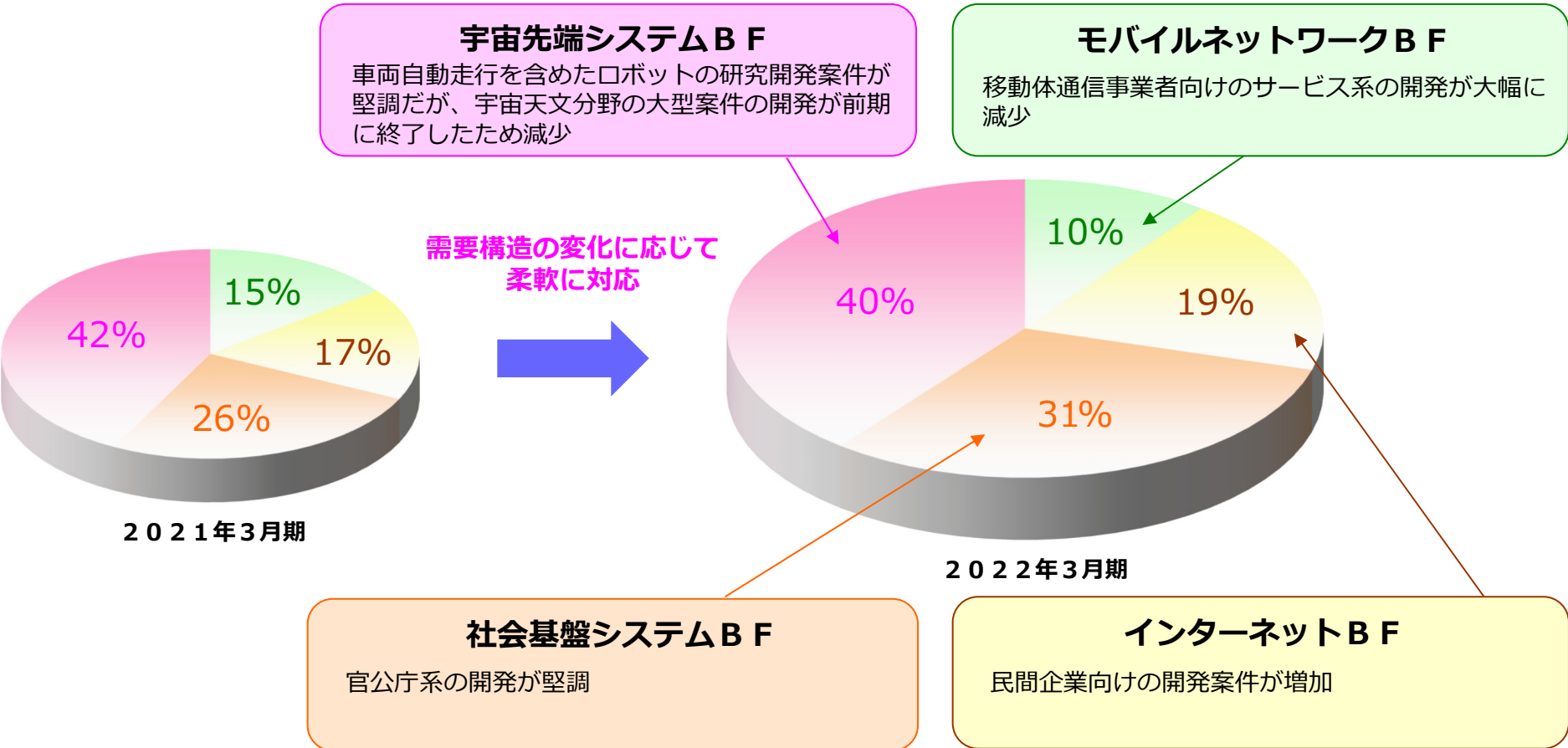
社会基盤システムBF、インターネットBFが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第1四半期		2022年3月期第1四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	197	14.7	137	10.1	69.7
インターネット	232	17.4	263	19.4	113.0
社会基盤システム	341	25.5	421	31.1	123.5
宇宙先端システム	567	42.4	535	39.4	94.4
合計	1,338	100.0	1,357	100.0	101.4

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発案件が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁系の開発が堅調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調だが、宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

第1四半期BF別構成比

社会基盤システムBFとインターネットBFが拡大



第1四半期末のB F別受注状況

モバイルネットワークBFが大幅に減少、インターネットBFが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第1四半期		2022年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	209	311	109	52.4	131	42.4
インターネット	217	278	261	120.4	366	131.7
社会基盤システム	596	1,416	584	98.0	1,618	114.3
宇宙先端システム	561	585	545	97.1	591	101.0
合計	1,584	2,590	1,501	94.7	2,707	104.5

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,154百万円、前期(2,200百万円)と比較し2.1%の減少)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発案件が増加したため、受注高は大幅に増加
- 社会基盤システムBFは、防衛分野の大型案件の切り替え時期にあたり、受注高は減少
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の大型案件の開発が減少したため、受注高は減少

ロボットビジネスの状況

実績 (2022年3月期第1四半期 売上高約365百万円)
← 前年同期約363百万円 ← 前々年同期約249百万円)

車両自動走行、サービスロボットの研究開発案件が堅調 (前期並み)

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信、国の研究機関などが大幅に増加
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM (ミドルウェア) などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向が継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化 (ラストワンマイル)、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α (複数台制御、開発、教育、コンサルなど) のビジネス
- ロボット高付加価値化 (ソフト会社しかできない) ビジネスの推進
⇒ ロボット+α (エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど) のビジネス

2022年3月期 通期業績見通し

2022年3月期業績見通し（変更なし）

需要環境の変化が継続するものと予想し、売上高は微増の計画

（単位:百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,525	6,700	102.7
売上原価	4,676	4,720	100.9
売上総利益	1,849	1,980	107.1
販売管理費	838	930	111.0
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,050 (15.7%)	103.8
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,090 (16.3%)	103.4
当期純利益	727	750	103.1

売上高 前期と同様、需要構造の変化が継続する中で、戦略的な受注を優先するため、微増の計画

売上原価 設備投資や待遇向上など人件費の増加を見込む

販売管理費 先端技術の教育拡充、研究開発への投資などにより、増加を見込む

営業外損益 前期並みを見込む

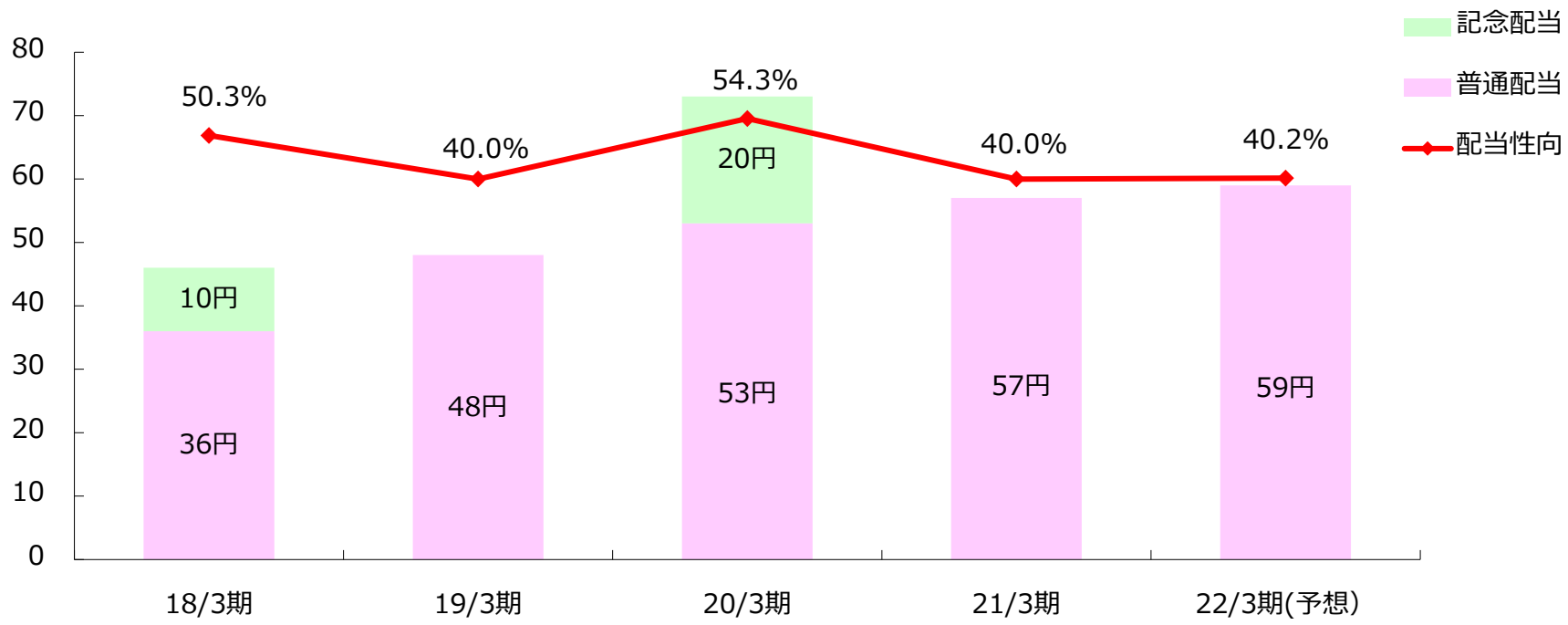
2022年3月期B F別業績見通し

社会基盤システムB F、インターネットB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、需要構造の切替時期にあたり、全体では減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少し想定を下回る展開	➡
インターネット	民間企業向けの大型案件に不透明感があり、減少	➡	民間企業向けの開発案件が増加し、想定を上回る展開	➡
社会基盤システム	医療を含めた官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調で、増加	➡	宇宙天文分野の開発案件は減少傾向だが、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、全体では微増を見込む	➡

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2022年3月期は1株当たり59円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。